

令和5年9月4日

令和5年度 学校関係者評価委員会報告書

学校法人郷学舎
アルスコンピュータ専門学校
学校関係者評価委員会

自己点検評価委員会が作成した令和4年度自己点検・評価報告書をもとに、学校関係者評価委員会を実施しました。令和5年度学校関係者評価委員会について、下記のとおり報告します。

記

1. 開催日時

令和5年8月30日（水） 14：30～16：20

2. 場所

アルスコンピュータ専門学校 101教室

3. 学校関係者評価委員

【関連業界関係者】

- ① 大久保 和政 氏（熊谷商工会議所 会頭）
- ② 大島 匡 氏（医療法人くぼじまクリニック 事務長）
- ③ 河邊 弘子 氏（学校法人熊谷ルンビニー学園 摩耶幼稚園 園長）
- ④ 中尾 洋道 氏（株式会社明幸フォーラム 代表取締役）
- ⑤ 朱 力敏 氏（ソホビービー株式会社 代表取締役）

※ 河邊氏は当日欠席のため、別途ヒアリングを実施

【教育関係者】

- ⑥ 中村 克彦 氏（元深谷市教育委員会 教育長）

【地域代表】

- ⑦ 和田 広之 氏（一般社団法人 さいしんコラボ産学官 専務理事）

【保護者代表】

- ⑧ 北堀 美佳 氏（在校生保護者）

【卒業生代表】

- ⑨ 隅田 和利 氏（第5期卒業生）

【事務局（学校側）】

- ① 新井 公一 （学校法人郷学舎 理事長）
- ② 荻野 欣男 （アルスコンピュータ専門学校 校長）
- ③ 正田 淳一 （アルスコンピュータ専門学校 副校長）
- ④ 籠原 智恵 （アルスコンピュータ専門学校 教務部課長）
- ⑤ 戸川 千詠子 （アルスコンピュータ専門学校 福祉保育科学科長）
- ⑥ 長瀬 あゆみ （アルスコンピュータ専門学校 情報ビジネス科学科長）
- ⑦ 皆川 博 （アルスコンピュータ専門学校 教務部係長）
- ⑧ 田口 紀子 （アルスコンピュータ専門学校 総務部主任）

4. 学校関係者評価委員会 次第

1. 開会
2. 委員の委嘱
3. 委員紹介
4. 理事長挨拶
5. 校長挨拶
6. 委員長の選出
7. 協議【中村委員長により議事の進行が行われた】
 - ①学校関係者評価委員について
 - ②学校基本情報（概要）と近況報告
 - ③令和4年度自己点検評価結果について
 - ④令和4年度重点項目の達成状況報告
 - ⑤令和4年度自己点検評価項目取り組み状況報告
 - ⑥令和5年度重点目標について
 - ⑦意見聴取
 - ⑧その他
8. 閉会

5. 学校関係者評価委員会報告

～各項目に関する学校関係者評価委員の評価・意見～

重点目標①について

- 就職指導やフォロー体制について工夫しているとの事ですが、実際に御校の学生にお会いして、他の専門学校生や大学生と比べ、マナーや面接における指導が行きわたっていると感じ、非常にしっかりしている印象を受けています。実際にどんな指導をされているのかに興味を持ちましたので、差支えなければ教えて頂きたい。
- (学校側) キャリアデザインという科目を設置し、キャリア教育検討委員会にて指導プログラムを策定しております。その際、「自己分析」「働くとはどういうことか」「キャリアとはどういうことか」を重要事項としています。また、内定を頂いた後には、各業界関係者の方にご講演いただき、グループワークにて振り返りを行なうなど、早期離職をしない為にどうしていけば良いのかというところから、きめ細かいキャリア教育を行なっています。また、現状にとどまらずに指導方法の研究を繰り返し、更に良い指導ができるように改善を続けています。
- アルスブランドの再構築について、学生募集や就職実績に関することなど色々な意味でブランディングは必要だと思いますが、重点目標には、差別化を意識した魅力の発信や発信力の強化と書いてあります。具体的に、今までとどのように違う形で取り組もうとしているのか。
- (学校側) 発信力を強化するには実績が伴う必要があると考えています。先程5項目にあったカリキュラムや学びの特徴、資格取得といったような実績作りが重要だと思っています。言葉だけで、具体的なものが伴わないと説得力に欠けてしまうため、実績を出すことにより、それが発信力の強化に繋がると考えています。
- (学校側) 卒業生の成長度合いというのは、本校に入学してから卒業時点まででどれだけ成長したのかという指標となります。昨年度は3月に卒業生を対象にアンケート調査を行いました。「アルスに来て成長できた。」「しっかり内容が身に付いた。」「仲間と協力し合いながら達成できた。」この3つが回答の9割近くを占めています。この結果から、本校での学校生活を通じ、仲間と一緒に成長できたと卒業生が感じている事が推測できます。

重点目標②について

- 最近、世の中がDX化により変わられる企業もありますが、社員が自分のスキルを磨くためにリスキリング(自分で学び直し)の制度がある企業もあります。その為、学び直しを含めて専門学校でしっかり対応してもらえ

るのが大事だと思っています。

- (学校側回答) 社会人向けのリスキリングや、よりレベルの高い教育という部分については、「情報教育強化委員会」を立ち上げた経緯の一つに、そのような目的もあり、選択する科目の勉強や学習をどうカリキュラムに落とし込んでいくのかが出来れば、何年後かには本科生のカリキュラムに入る可能性もあると考えます。勉強会や企業連携を通じて面白い取組ができるのではないかと考えています。

基準1. 教育理念・目的・育成人材像

- 特になし

基準2. 学校運営

- 学校運営や授業カリキュラムが全て順調に進めることが出来ていると思います。

基準3. 教育活動

- 卒業生の成長度合いの可視化と満足度や離職状況を把握するために、何年かアンケートを続けているということですが、アンケート結果で何か注目すべき点があれば教えてほしい。
- (学校側) 企業様からは、ビジネスマナー教育を徹底して卒業して欲しいとご意見をいただいておりますので、カリキュラムに含めながらどのようにしていけば良いか、委員会で検討し指導を行なっています。
- 日帰り旅行、宿泊旅行などを計画されている事から、学生生活においてかけがえのない時間を同期の友人たちと対話したり時間を過ごすことであったり、社会勉強として熊谷から出てそういったものを感じる経験は、卒業後、社会に出てからの環境であったり、定着率につながる部分の1つのイベントであるのではないかと感じております。勉強以外にもできる人間関係や、地域の方とのコミュニケーションを取ってもらうことでできるのではないかと思います。
- 先生方の勉強会の実施について、非常に素晴らしい取組だと思いました。ITの世界は毎日進化している技術があると思いますので、その部分を勉強されている取組はとても良いと思います。
- 最近流行りのチャット GPT という言葉が出てきました。言葉として流行ってはいますが、専門学校としてチャット GPT を意識したアイデアや事業内容など新たな取り組みがありましたら、ご紹介いただければありがたいと思います。
- (学校側) 本校もコンピュータの専門学校として、特定の学科というより

は全ての学生が何らかの最低限の安全性、危険性を知る必要があると考えています。情報教育強化委員会では、教員の勉強のテーマとして、情報教員が危険性や効果的な利活用について、まず教員が知る必要があると考え勉強会を進めております。心配なのは、学生が課題や試験など成績に係るところで不正使用をしたり、著作権の侵害に当たるようなことが起こらないかどうかです。生成系 AI については、具体的にはまだまだ情報が不足しているところがありますので、注意点等を整理し、安全な使い方等を学生に教えてゆきたいと考えています。

基準 4. 学修成果

- 社会情勢に合わせて就職や検定取得について、御校はしっかり対応されていると思っています。
- 資格取得に関して、国家試験の実績報告がありました。難しい資格試験ではありますが、是非、1 つでも多く取得していただけると良いと考えます。DX 化が進む中で、お客様の予算が縮小されているのが現状であり、新入社員の IT プロジェクトの席が取り合いになっている状況です。その一つの武器として国家資格を取得していると、世の中の同期のライバルに強くアピールできるので、是非、積極的に資格取得を進めて頂ければと思います。

基準 5. 学生支援

- 特になし

基準 6. 教育環境

- 特になし

基準 7. 学生募集と受入れ

- 特になし

基準 8. 財務

- 特になし

基準 9. 法令等の遵守

- 特になし

基準 10. 社会貢献・地域貢献

- 現在、地域の企業も街づくり事業について地域の皆様方とのアイデア募集の接点がコロナ禍で少なくなっている状況ではありますが、NPO で星川を

中心にした街づくり事業の展開の予定があります。是非このような事業にアルスの学生さんとの接点が設けられると良いと思っています。

- また、階段アートについては、夏の清涼感を出す作品をいつも出品してご協力を頂き、好評を得ています。

【学校関係者評価委員会総括】

学校関係者評価委員会として、令和4年度自己点検評価報告書の内容について確認及び承認を行いました。

以 上

【学校関係者評価委員会からのご意見を受けて】

委員の皆様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、地域に根差した専門学校として使命感をもって教育活動をすすめてまいります。

今後も引き続き、学修成果の可視化、計画的な指導を行い、学生支援についても学生・父母等との連携を更に強化し、継続的な取り組みを行っていきたいと思います。